

Confidential

DNP 楽譜配信・活用サービス MuseCloud™
コンテンツホルダー・ユーザー視点に立った 次世代楽譜流通創出事業

DNP

2021年 10月 30日
大日本印刷株式会社
出版イノベーション事業部

©2020 Dai Nippon Printing Co., Ltd. All Rights Reserved.

いかなる形式でも本紙の一部または全部の複製および無断掲載をお断り致します。

「これでは将来、楽譜そのものが 手に入らなくなるのではないか」

欲しいタイミングで手に入らない紙楽譜。

必要な時に手に入らないからコピーしてしまうのなら、

「必要な時に欲しい場所・欲しいカタチで」手に入れる事が当たり前になれば、
違法といわれるコピーがなくなるのではないか？

楽譜出版社も、本当なら購入される機会なのにコピーされている。

機会を逸してしまっている現状を「違法コピー撲滅！」とだけ訴えるのではなく
ユーザー側に便利な提供の場・形を作れば、皆がハッピーになるのでは？

今までは“頼れた”専門問屋が、既得権益を守るために門戸を狭くしている。楽器店・
レコードショップが減り、販売チャネルが減れば、楽譜をリリースしてもますます売れなくな
る。

⇒**楽譜が生まれて1300年、紙楽譜がいよいよ“DX”する！？**

DNP 楽譜配信・活用サービス
ミューズクラウド



MuseCloud™

楽譜をより使いやすく、読みやすく！
音楽活動をもっと楽しみたい方を応援します。

社会課題を解決する為に（次世代楽譜流通創出事業）

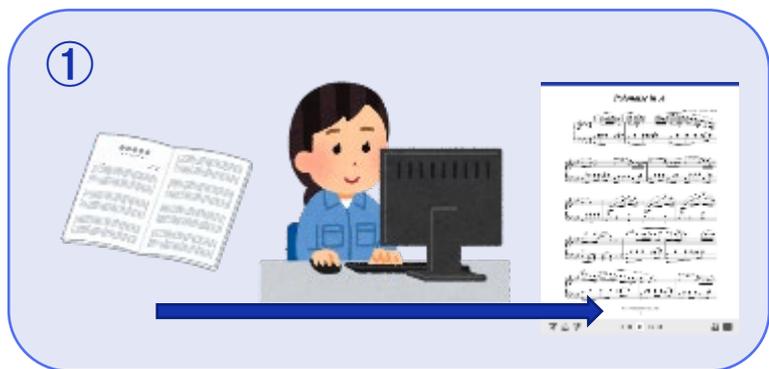
DNP

- ・ 楽譜はそもそも流通経路が狭く、ユーザーは入手しにくさを理由に違法コピーしてしまう。楽譜出版社はこうした正規購入機会の損失に悩んでいる。（違法コピー量は年8400万曲：矢野経済研究所調査）
- ・ 苦勞して入手しても実演奏に合わない楽譜もあり、自分でカスタマイズが必要でとても面倒。
- ・ 既存出版譜はかさばって持ち運びにくく使いづらい。

こうしたユーザー側・コンテンツ提供者側の社会課題を解決できるビジネスモデルの構築を目指し「ハイブリッド楽譜販売」の新規事業開発をスタート。

開発Point

- ① DNPグループ内で楽譜データ（MusicXml）を制作できる業務スキームの構築
- ② 楽譜コンテンツを電子+PODで購入できる販売PF（24時間365日）の構築
- ③ 購入したMusicXml楽譜や自分でPDF化した楽譜を活用できるアプリケーション開発



楽譜制作スキーム構築



楽譜販売PF構築



楽譜活用アプリケーション開発

事業概要

■ 事業概要

社会人演奏家（ハイアマチュア）に対し、手軽にリーズナブルに楽譜を弾きやすく出来るアプリケーション機能を提供する弾きやすくした楽譜を更に使いやすくするPOD製紙楽譜も提供することで、電子・紙のハイブリッド楽譜提供を実現する

■ 事業の意義

既存流通とは異なる“新たな楽譜流通経路”、次世代の楽譜ビジネスをリードできる技術・ノウハウを創造することで、楽譜コンテンツを持つ出版社・所蔵機関、楽譜を使いこなしたいユーザー、両者をつなぐDNPの「三方よし」を実現

■ 提供価値

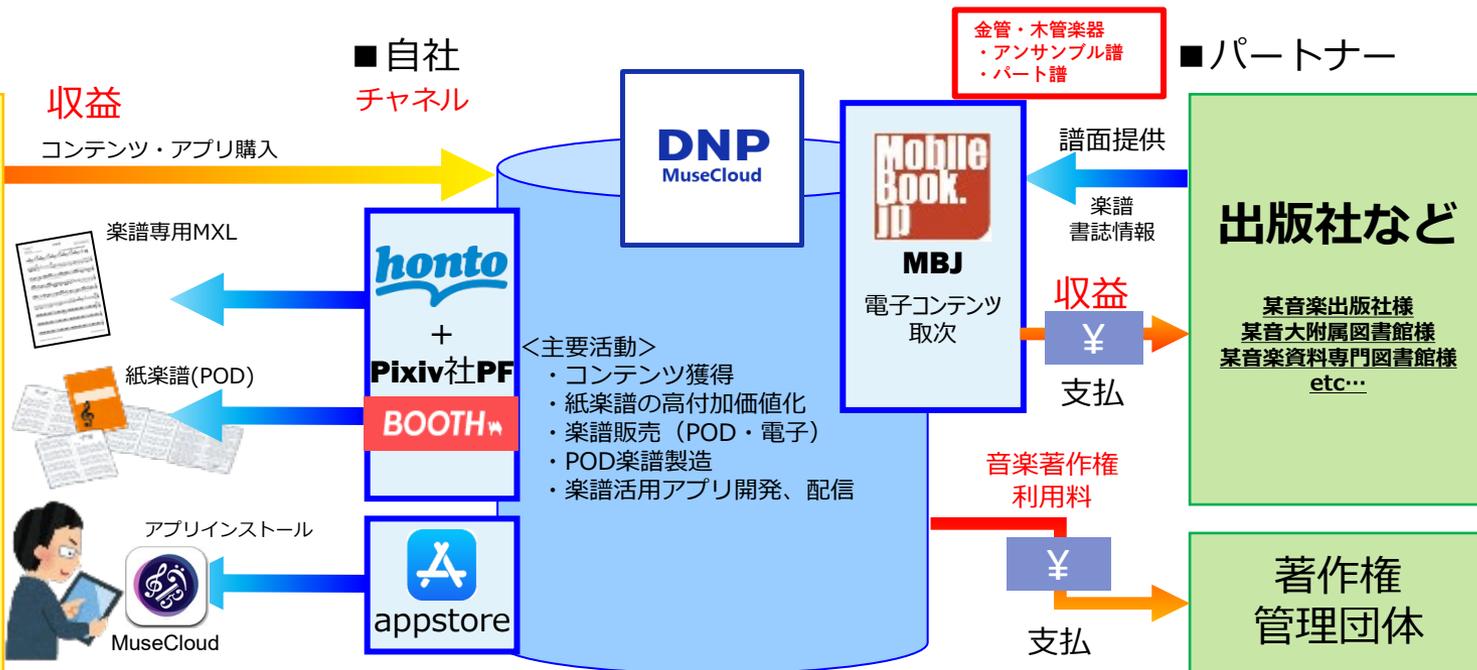
- ・ 紙楽譜では加工しにくいパーソナライズ化を実現できる **フルデジタル楽譜**の提供
- ・ フルデジタル楽譜を簡単に弾きやすくできる機能を持った **アプリケーション**（iPad専用に開発）の提供
- ・ フルデジタル楽譜 + 既存出版譜には無い使いやすさを実現できる **POD紙楽譜**のハイブリッド提供

■ 顧客

想定利用者
国内約1300万人
↓
まず 国内の社会人アマチュア音楽家
金管・木管楽器層
約58万人

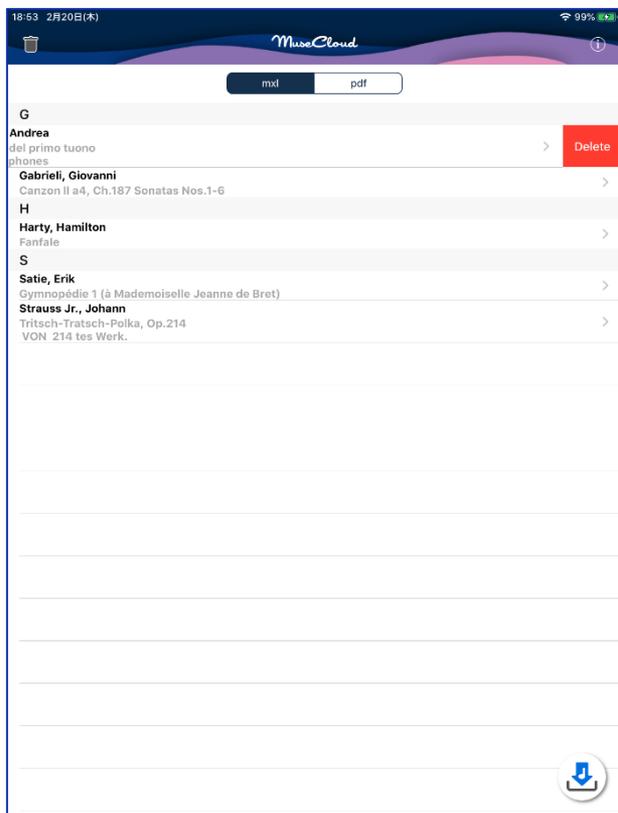
■ 自社

チャネル



リリースアプリ (Ver.2.1・iPhone/iPad対応) ※日本国内のみのリリース

DNP



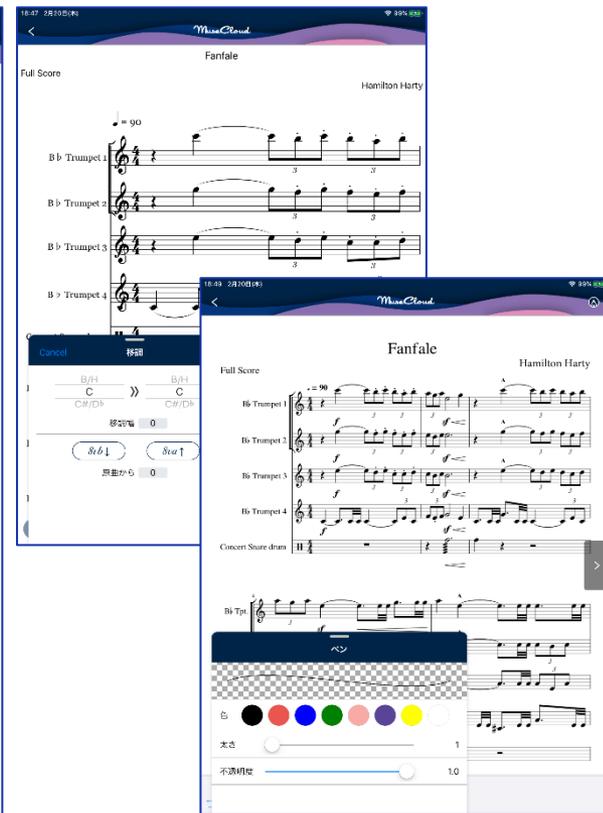
所蔵楽譜ライブラリ画面

購入済み楽譜やセルフ電子化楽譜等を
一覧表示、PDFとmxlの2種を管理可
能（プラインポート楽譜5点あり）



楽譜閲覧・利用画面

楽譜を使ったイメトレや実際の練習・演
奏等、コンテンツ活用時の各種操作画
面



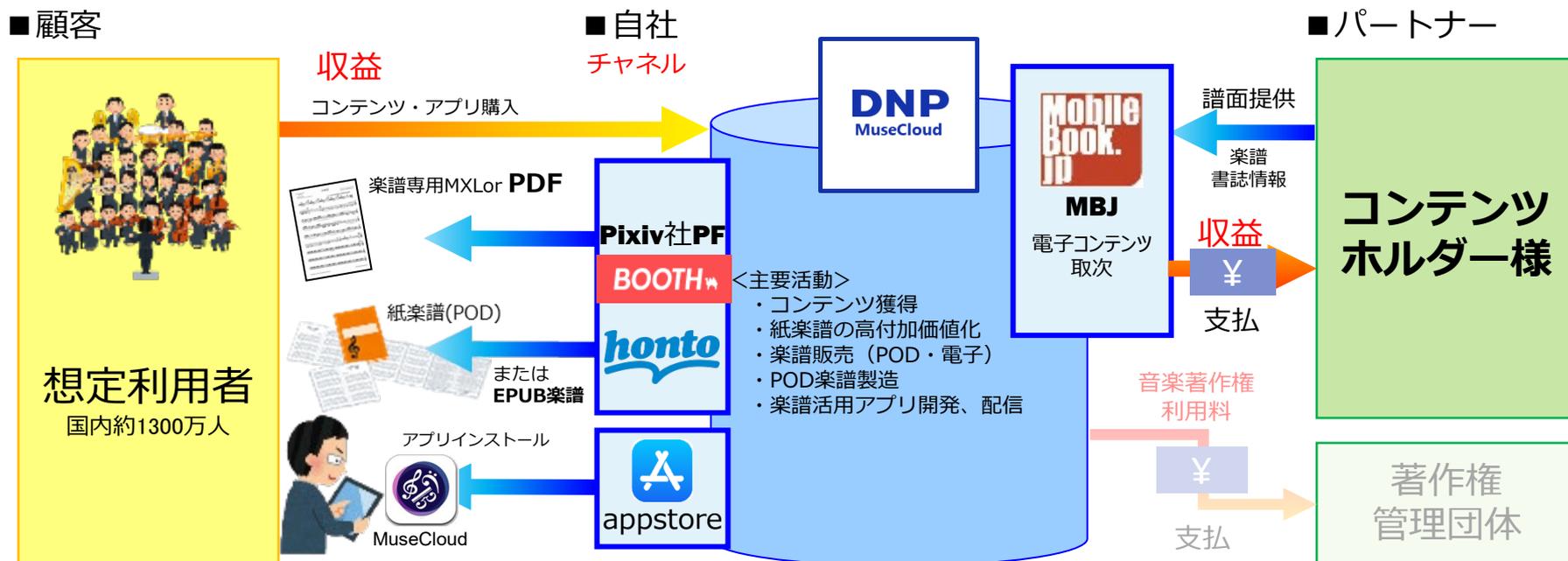
移調・読み替え(mx1)
書き込み(PDF)画面

フルデジタル(mx1)ならではの移調・読み
替えや、PDF楽譜への書き込み機能など、
実際の楽譜利用シーンを想定した必要最
小限の機能を無料で提供

BtoC事業として

DNP

- ①ユーザー視点での事業開発は「着目点」としては良かったが・・・
- ②楽譜出版業界からの「ビジネスモデル」としての評価は良かったが・・・
- ③ユーザー層とニーズのあるコンテンツの分析は・・・
- ④音楽流通そのものの現状と課題、楽譜出版は・・・
- ⑤MusicXMLそのものの“可能性”



MusicXMLを用いた安心安全な楽譜流通の為に・・・

- ①作曲家や作詞家にとって、デジタルデータが無軌道にやり取りできる事への懸念
- ②MusicXMLの商用利用は国内初で、著作権利用料が未設定
- ③アプリケーション機能がミニマムで、機能・サービスの高付加価値化
- ④国内外に眠るアーカイブコンテンツの活用
- ⑤世界的な音楽書誌（MARC）の商用ベース活用



- ①デジタル著作権管理（digital rights management、DRM）技術を用い、制作者・コンテンツホルダー・利用者が安心して活用できるPFの開発
- ②国内の著作権管理団体に対し、適切な権利処理を効率的に実現させる料率策定と処理業務の効率化を業界団体と共に検討・協働する
- ③楽譜データの利用管理（共有や貸し借り、書き込み情報の活用など）を実現でき、実利用シーンにおいても利便性の高い機能やデータベース（楽譜保管機能）の追加開発
- ④持続可能な事業としてアーカイブコンテンツを有効活用し、必要な方に合理的に提供できる「マネタイズ」ビジネスの実証および実現（絶版楽譜や先人の書き込みなど）
- ⑤音楽書誌の活用による世界的な流通活性化→MARC情報のデファクト化

楽譜制作（浄書）や“デジタルアーカイブ”もお任せください

Q：これまでの楽譜制作工程でこんな課題はありませんか？

- ・納品された楽譜はPDFやJPEGフォーマット（画像化・固定化）、追加加工や修正ができない
- ・楽譜出版社側は楽譜そのものの基データを活用できない

A：弊社内に構築した“楽譜制作体制”なら、
紙楽譜やPDF・JPEG底本からの電子化（浄書）対応可能

- ・FinaleとSibeliusを導入、オペレーターも音楽経験者
- ・800タイトル以上の「紙・PDF→MusicXML」制作実績
- ・オーケストラ譜の浄書実績（フルスコア→パート譜化も含む）

Q：楽譜資料のデジタル化・アーカイブ構築にこんな課題はありませんか？

- ・デジタル化の作業は、現地作業？資料を預けての作業？貴重書の取り扱いに不安がある
- ・著作権が活きていたり、楽譜出版社が現存する場合はどうすればいい？
- ・アーカイブシステムの構築や導入に「将来の幅」を持たせたい・・・

A：丸善雄松堂なら、DNPグループ全体で
デジタル化～権利処理・システム構築まで幅広い実績。利活用ノウハウも提供可能

貴重な**情報資産**である楽譜情報を更に活用できます。是非ご検討ください。

楽譜事業・デジタルアーカイブに関するお問い合わせ

大日本印刷株式会社

出版イノベーション事業部 CLMビジネスセンター

CLM企画本部 MuseCloud事業担当 清水 拓哉

文書情報管理士1級 準デジタル・アーキビスト

✉ Shimizu-T7@mail.dnp.co.jp